「未来の教室」実証事業中間報告：
事業者名：一般社団法人小布施まちイノベーションHUB

OBUSE MACHI INNOVATION HUB

類型a
類型b
類型c
2次公募

事業概要

若者の自殺対策@小布施町を題材にした チェンジ・メイカー育成プログラム

対象自治体である小布施町（人口1万人規模の自治体）が抱える２つの地域課題 (若者の不登校や自殺率の高さという課題/行政組織の硬直化等の職場環境の課題) をテーマに、企業内外の20-30代の経営者・マネジメント層を対象とした人材育成プログラムを開発・実証します。

具体的には、同一の参加者が11月・12月・2月に実施予定の複数回の現地でのスタディツアーや議論を通じて、対象テーマに対する現場の声を拾い、課題を構造化し、具体的なソリューションのプランニングに取り組みます。このプロセスを通じて、参加者のマインドセットとスキルセットを変革し、その結果、チェンジ・メイカーを育てることを目指します。

進捗状況と今後の展望

＜進捗状況＞

①参加者の確保（9-10月）
本プログラムの対象となる「おおむね２５－３５歳の経営予備軍・マネジメント層」を確保するために、つながりのある企業等へのアプローチや弊社が企画運営を行う「小布施若者会議」などのプログラムに参加経験のある個人への個別アプローチをとった。11月の最初のスタディツアーを前に15名の参加者が確定している。

②プログラムの構築と調整（8-10月）
地域内の事業者やステークホルダーへのヒアリング等を進め、11月以降のプログラムの概要の決定と構築を進めた。

③アドバイザーやメンターの決定（9-10月）
参加者とともに伴奏していただく人材開発の専門家やテーマ（メンタルヘルス）の専門家らへの協力を打診し人材の確保を行った。

④能力群の整理とアンケート項目の整理（9-10月）
本プログラムを通じて、参加者にその向上をサポートすべき能力群の整理を進め、言語化するとともに、参加者がそれらの能力についての現状認識をうながすためのアンケート項目の整理を行った。

＜今後の展望＞

・参加者同士の事前のコミュニケーションを図るために、facebook等でのクローズドなコミュニティを立ち上げる。

・11月以降のスタディツアーを通じて、地域課題をテーマとしたプログラムに対する参加者層の反応から、プログラムの効果と課題を図る。

参考①）一般社団法人小布施まちイノベーションHUB

能力群の整理①：
地域課題の解決に取り組む上で、そのプロセス全体で基礎的に重要となるスキルやマインドを「コアスキル・マインド」として定義し、以下のように整理した。

コアスキル・マインド	概要	コアスキル・マインド（小）	ありたい姿（ゴール）
自分ごとにする力	他者が抱えている問題を自分ごとの課題として捉え直すとともに、課題解決に向けて自らをモチベートして継続的に取り組むことができる。	セルフモチベーション	・（他者の課題の自分ごと化）他者の問題を理解し、その全体または一側面を自分ごととして捉えることができる。
		セルフマネジメント	・（目標達成に向けた自己管理）自ら設定した課題やタスクを、期限内にやる遂げることができる。 ・（継続性を担保する環境整備）自分ごとにした課題に継続的に取り組める環境を主体的に整備することができる。
他者と理解し合う力	現場の声に耳を傾け、自らの考え方の癖を極力排除しながら、相手の文脈を理解し、本音を引き出すことができる。 また、自らの考えや意見を伝える際には、統計的な数値や類似の事例などを基に論理的に伝えたり、相手にとってわかりやすい言葉や話し方で、共感を得ることができる。	聞く・理解する	・（現場への意識）課題を考えるときには、まずは現場にいる関係者の声を自ら聞きにいくことができる。 ・（思考の癖の排除）話を聞くときには、自らの思い込みや思考の枠があることを理解し、それらを排除して相手と対話することができる。
		伝える	・（主体的な意見表明）自らの考えやその理由を積極的に言葉にできる。 ・（論理的な言語選択）物事を整理して、論理的に伝えることができる。 ・（共感性の高い言語選択）相手の共感を得られる言葉や話し方、内容で相手に伝えることができる。
チームで動く力	チームで共通認識や共通目標を持てるようにその場をファシリテートしたり、チームメンバーに主体的に声をかけたりサポートすることで、全体のプロセスが適切に進むように効果的に動くことができる。 また、取り組む問題や状況、チームメンバーの特性に合わせて、自分の役割を見出し、必要な役割を担おうとできる。	（その場における）ファシリテーション	・（違いの表明）議論している時に、他者との認識や考え方の違いに気付き、それらを表明することができる。 ・（多様な意見の棚卸し）議論している時に、多くの人から話を引き出したり、話を振ったりすることができる。 ・（合意形成）意見が対立するときに、互いが合意できるところで話をまとめることができる。
		（プロセスにおける）チームマネジメント	・（個別事情の把握）チームメンバーの価値観や立場、能力などを把握することができる。 ・（適切な役割分担）チームメンバーの力が最大限発揮されるように、適切な役割を分担したり、全体の事業計画を立てていくことができる。
		適材適所	・（主体的な役割選択）状況やメンバーに応じて、自らの果たす役割を見出し、主体的に担うことができる。
振り返り、先につなげる力	自らの行動を、その成功や失敗を問わず「経験」として位置づけ、その経験から学んで次に生かすために、様々な視点から振り返り、次の行動指針を決めることができる。	振り返り	・（経験の振り返り・メタ化）自らの経験を客観的に振り返り、言語化することができる。 ・（学びの言語化）自らの経験から良い点や改善点を振り返り、学びを抽出することができる。
		実行・反映	・（学びの反映・行動化）経験から学んだものを活かし、行動指針として落とし込むことができる。

参考①）一般社団法人小布施まちイノベーションHUB

OBUSE MACHI INNOVATION HUB

類型a
類型b
類型c
2次公募

能力群の整理②：地域課題の解決に取り組む上で、プロセスごとに必要となるスキルを「プロセススキル」として定義し、以下のように整理した。

プロセススキル	概要	プロセススキル（小）	ありたい姿（ゴール）
現状把握	現場でのヒアリングや数値的なデータなど、得られた情報から問題の構造を整理し、現状を適切に捉えることができる。	ヒアリング・アクティブリスニング	・（現場での多面的な情報収集）対象テーマに関わるステークホルダーを整理し、様々な角度から現場の声とその本音（問題と感じていることや望んでいること）を探ることができる。
		データ収集・取捨選択	・（数値データの収集と取捨選択）対象テーマにおける問題を適切に把握するために、関連する統計データや数値を集め、必要な資料を選別できる。
		情報整理・構造化・言語化	・（情報の整理と構造化）ヒアリングやデータ収集など得られた情報から、問題の構造を整理し、言語化することができる。
企画立案	多くの人が共感・協力したいと思えるようなビジョンを描き、その実現に向けた課題設定や具体的な企画立案に落とし込むことができる。	ビジョニング	・（ビジョンの言語化）ヒアリングやチームメンバーとの議論の中から、対象テーマにおける「在りたい未来」や「ビジョン」をありありを描くことができる。
		課題設定	・（課題の言語化）描いたビジョンや現状を踏まえ、チームが立ち向かうべき課題とは何かを言語化できる。
		創発的な企画化	・（創発的な企画化）ビジョンを実現するための短・中・長期での企画（事業）案について、異なる複数の選択肢を創発的に生み出すことができる。また、そのような創発的な企画を生み出す場を設計することができる。
検証・合意形成・仲間探し	最初から完成形を目指したり、遠くの目標に向かおうとするのではなく、少しずつ形にし、その方向性や方法論を適宜検証しながら事業を進めることができる。 また、試行錯誤の過程で、各ステークホルダーとの合意形成や必要な人材の巻き込みを進めることができる。	プロトタイプ	・（小さな一歩の設定と実行）やりたいことを試してみたり、スモールモデルで実践したり、試行錯誤のための一歩を踏み出すことができる。
		合意形成	・（ステークホルダーとの合意形成）企画を進めるに当たって、様々なステークホルダーと合意形成を図ることができる。
		チームビルディング	・（必要な能力の整理と仲間探し）企画の実現に向けて必要な能力を持つ仲間に声を見つけ、巻き込むことができる。
事業化	本格的な事業化に向けて、必要な具体的なタスクを整理し、チームが常に動ける状態をつくることができる。	アクションプラン	・（具体のタスクへの落とし込み）企画の実現に向けて必要な具体的なタスクを整理し、具体的な行動計画を作ることができる。